

平成20年12月

山家健作 学位論文審査要旨

主 査 豊 島 良 太
副主査 井 藤 久 雄
同 林 一 彦

主論文

High expression of enhancer of zeste homologue 2 indicates poor prognosis in patients with soft tissue sarcomas

(軟部肉腫患者においてenhancer of zeste homologue 2の高発現は予後不良となる)

(著者：山家健作、尾崎充彦、木谷憲典、庄盛浩平、吉田春彦、井藤久雄)

平成20年 Molecular Medicine Reports 掲載予定

審査結果の要旨

本研究は、外科的に切除された軟部肉腫におけるenhancer of zeste homologue 2 (EZH2) 発現の臨床病理学意義を、Ki-67発現と比較し検討を加えたものである。その結果、1. 転移した群は転移していない群よりEZH2標識率が高いこと、2. 組織学的グレードが高い群ほどEZH2標識率が高いこと、3. EZH2標識率とKi-67標識率に相関があること、4. EZH2高発現群は低発現群と比較して有意に予後が不良であること、5. EZH2高発現群は独立した予後不良因子であること、を示した。本論文の内容は、軟部肉腫における予後予測マーカーとしてのEZH2の病理学的意義について解明したものであり、明らかに学術の水準を高めたものと認められる。